

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空力学Ⅱ	講義		1	1	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	飛行機が飛ぶ仕組み、空を自由に飛ぶ仕組み、ジェット・エンジンの仕組みについて理解する
使用教科書・副教材等	空を飛ぶはなし
教員実務経験	運航管理者の資格を有して運航管理業務を行った経験 小型飛行機を操縦した経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	①空を飛ぶ力学 ジェットエンジン 計器 音速	4	1) ジェットエンジンの仕組みについて理解する	前期試験 1)～5)
			5	2) エンジンの計器について理解する	
			6	3) 飛行機の高度計、速度計について理解する	
			7	4) 音速について理解する	
			8	5) 飛行機の姿勢、方向、位置を知る計器を理解する	
後 期	②空を飛ぶ性能 電気配線 重量と重心位置 搭載する燃料 着陸装置	10	1) 飛行機の電気配線について理解する	卒業試験 1)～5)	
		11	2) 飛行機の重さと重心位置について理解する		
		12	3) 飛行機に搭載する燃料について理解する		
		1	4) 着陸装置について理解する		
		2	5) 最新型機のメカニズムを理解する		
		3			

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
発動機Ⅱ	講義		2	2	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	タービン・エンジンの性能及び構造内容を理解している
使用教科書・副教材等	・タービンエンジン ・航空工学入門
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	①エンジンの分類	4	1) 航空エンジンの分類を理解する	前期試験 ①～⑥
		②エンジンの概念		2) 各種型式と動力装置の具備条件を理解する	
		③熱力学	5	1) 熱量と仕事を理解する 2) 気体の比熱を理解する	
		④タービン・エンジンの概要	6	1) 完全ガスの性質と状態変化を理解する 2) 内燃機関のサイクルを理解する	
		⑤タービン・エンジンの出力	7	1) タービン・エンジンの推力と軸出力を理解する 2) タービン・エンジン性能を表す各計算式を理解する	
		⑥タービン・エンジン本体の基本構成要素	8	1) タービン・エンジンの構造を理解する 2) タービン・エンジンの作動原理を理解する	
	後 期	⑦タービン用燃料及び滑油	10	1) タービン・エンジンの燃料の要素及び性質を理解する 2) タービン・エンジン用の滑油の具備条件を理解する	卒業試験 ⑦～⑩
		⑧タービン・エンジンの各種系統	11	1) タービン・エンジンの各種系統を理解する	
		⑨タービン・エンジンの材料	12	1) タービン・エンジンで使用される各材料の概要を理解する	
		⑩タービン・エンジンのまとめ	1	1) 整備士試験問題集を活用してタービン・エンジンを復習する	
			2		
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
発動機Ⅱ	講義		2	2	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	タービン・エンジンの性能及び構造内容を理解している
使用教科書・副教材等	・タービンエンジン ・航空工学入門
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	①エンジンの分類	4	1) 航空エンジンの分類を理解する	前期試験 ①～⑥
		②エンジンの概念		2) 各種型式と動力装置の具備条件を理解する	
		③熱力学	5	1) 熱量と仕事を理解する 2) 気体の比熱を理解する	
		④タービン・エンジンの概要	6	1) 完全ガスの性質と状態変化を理解する 2) 内燃機関のサイクルを理解する	
		⑤タービン・エンジンの出力	7	1) タービン・エンジンの推力と軸出力を理解する 2) タービン・エンジン性能を表す各計算式を理解する	
		⑥タービン・エンジン本体の基本構成要素	8	1) タービン・エンジンの構造を理解する 2) タービン・エンジンの作動原理を理解する	
	後 期	⑦タービン用燃料及び滑油	10	1) タービン・エンジンの燃料の要素及び性質を理解する 2) タービン・エンジン用の滑油の具備条件を理解する	卒業試験 ⑦～⑩
		⑧タービン・エンジンの各種系統	11	1) タービン・エンジンの各種系統を理解する	
		⑨タービン・エンジンの材料	12	1) タービン・エンジンで使用される各材料の概要を理解する	
		⑩タービン・エンジンのまとめ	1	1) 整備士試験問題集を活用してタービン・エンジンを復習する	
			2		
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空法規Ⅱ	講義		2	3	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			40	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(前期・後期) 航空無線通信士受験対策として電波法規を学ぶ (後期) 航空法規(航空法、航空法施行規則)を理解する
使用教科書・副教材等	(前期) やさしく学ぶ 航空無線通信士試験 (後期) 航空整備士のための「航空法規等」－34のKeyで合格－
教員実務経験	航空無線通信士の資格を有してエアラインの航空機と交信を行った経験 運航管理者の資格を有して運航管理業務を行った経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	【航空無線通信士 受験対策】		前期試験 1)～7)
		① 電波法規 無線局の免許 無線設備、無線従事者 運用、監督・罰則 業務書類 関係法令、国際法	4 1) 無線従事者、運用について理解する	
			5 2) 運用、業務書類について理解する 3) 監督、罰則について理解する	
			6 4) 関係法令、国際法規について理解する 5) 過去問を通して、傾向と対策を理解する	
			7 6) 過去問を通して、傾向と対策を理解する	
	後 期	② 国家試験受験	8 7) 国家試験を受験する(8月期)	卒業試験 1)～8)
		③ 航空無線通信士 再受験対策 不合格科目の対策 過去問を解く	10 1) 航空無線通信士の過去問を解く 2) 法体系、定義、航空機の登録について理解する	
			11 3) 航空無線通信士の過去問を解く 4) 耐空証明、認定事業場、航空従事者について理解する	
		④ 航空法規 法体系、航空機の登録 耐空証明、認定事業場 航空従事者、航空日誌 救急用具、運航規程 整備規程、罰則	12 5) 航空無線通信士の過去問を解く 6) 航空日誌、救急用具について理解する	
			1 7) 航空無線通信士の過去問を解く 8) 運航規程、整備規程、罰則について理解する	
			2	
			3	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
エアラインオペレーションⅡ	講義		3	3	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エアラインにおける乗務員(運航、客室)の業務を理解する 気象通報式、航空管制、航法の基礎、ジェットナビを理解する
使用教科書・副教材等	エアラインオペレーション入門、図解パイロットに必要な航空気象 (プリント)航空管制入門、エア・ナビゲーションの基礎、ジェット機のナビ
教員実務経験	エアラインで運航管理者としての実務経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	80 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① エアラインオペレーション パイロット 客室乗務員(CA) 旅客・貨物営業スタッフ 航空会社の環境対策 航空輸送の発展	4	1) 航空機の性能、最低気象条件、横風値等について理解する 2) 運航の安全、衝突防止装置、パイロットの資格を理解する	前期試験 1)～8)
			5	3) CAの保安業務、緊急対策、機内サービスについて理解する 4) CAの仕事、編成と資格について理解する	
			6	5) 旅客営業について理解する 6) 貨物営業について理解する	
			7	7) 航空会社の環境対策について理解する	
			8	8) 世界及び日本の航空輸送の発展について理解する	
	後 期	② 航空気象 ③ 航空管制 ④ 空中航法 ⑤ ジェットナビゲーション	10	1) 天気図を理解する 2) 航空気象通報式(METAR、TAF)を理解する	卒業試験 1)～4)
			11	3) 航空管制システムとその流れについて理解する	
			12	4) 空中航法(ナビゲーション)の基礎について理解する	
			1	5) ジェット旅客機のナビゲーションについて理解する	
			2		
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空安全	講義		1	1	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	失敗(ヒューマンエラー)及びヒューマンファクターを理解し、飛行の安全、作業の安全とは何かを理解する。また航空機事故事例を学ぶ。
使用教科書・副教材等	①航空安全 TEXT 1(プリント教材) ②航空機整備 ヒューマンファクターの基礎 ③事故事例研究(プリント教材)
教員実務経験	航空会社の安全推進委員会事務局において航空安全の推進、啓発、教育、予防対策及び安全監査等に携わった経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① 航空事故は失敗の連鎖	4 1) 失敗とは、ヒューマンエラーとは	前期試験 1)～7)
		② 事故事例研究 テネリフェ空港事故 駿河湾上空ニアミス事故	5 2) ウィッシュフル・ヒアリング、権威勾配等について理解する 3) 事例研究1「テネリフェ空港ジャンボ機衝突事故」	
			6 4) リーダーシップ、声出し確認、指差し呼称等について理解する 5) リードバック、確認会話、ダブルチェック等について理解する	
			7 6) フールプルーフ、セルフモニタリング等について理解する 7) 事例研究2「駿河湾上空ニアミス事故」	
	後 期	8 8) 動画、DVDの視聴(「ハドソン川の奇跡」等)		卒業試験 1)～8)
		③ ヒューマンファクターの基礎	10 1) ヒューマンファクターの重要性、概念、要因について理解する 2) 事例研究3「アロハ航空243便事故」	
		④ 事故事例研究 アロハ航空事故 UA173燃料切れ事故 中華航空機炎上事故	11 3) ヒューマンエラーの管理、組織的な取り組みについて理解する 4) コミュニケーション、チームワーク等について理解する 5) 事例研究4「UA173便燃料切れ墜落事故」	
			12 6) リーダーシップについて理解する 7) 安全と健康、状況認識について理解する	
			1 8) 事例研究5「中華航空120便炎上事故(那覇空港)」	
			2	
			3	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本技術Ⅱ	講義		1	1	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の整備作業に必要な技術的な知識を習得する
使用教科書・副教材等	・航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期	前	①表面処理	4	1)表面処理の章を再度復習し、理解する	前期試験 ①～⑤
		②締結法	5	1)締結法の章を再度復習し、理解する	
		③成形法、作図知識	6	1)成形法を再度復習後、チャンネル型材の展開図を作成する	
		④構造修理	7	1)損傷部の処置の仕方を理解する 2)修理に必要なリベットの配置、本数の求め方を理解する	
		⑤ケーブル	8	1)ケーブルの種類を理解する 2)ケーブルの性質を理解する	
学 年	後	⑥ホース・チューブ	10	1)ホースの構造と特徴を理解する 2)チューブの材料と使用範囲を理解する	卒業試験 ⑥～⑨
		⑦非破壊検査	11	1)非破壊検査の各種検査内容を理解する	
		⑧法令	12	1)航空関連法規の概要を理解する 2)航空従事者に関する法令を理解する	
		⑨基本技術のまとめ	1	1)2年次学習した項目を整備士試験問題集を活用して理解する	
			2		
年	期		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空無線Ⅱ	講義		4	5	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			80	100	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空無線通信士資格取得
使用教科書・副教材等	①やさしく学ぶ 航空無線通信士試験 ②航空無線通信士 英語 試験問題集
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲		
第 二 学 年	前 期	【航空無線通信士 受験対策】		前期試験 ①～②		
		① 無線工学(1年次からの続き) 試験問題集を解く その他の過去問を解く	4		1) 受信機、レーダーについて理解する 2) 英語試験問題集の過去問題を解く、英文法を理解する	
			5		3) 電波航行装置、電源について理解する 4) 英語試験問題集の過去問題を解く、英文法を理解する	
		② 英語、英会話(同上) 問題集の過去問題を解く その他の過去問を解く	6		5) 空中線・給電線、電波伝搬について理解する 6) 英語試験問題集の過去問題を解く、英文法を理解する	
			7		7) 過去問を解く、英文法を理解する 8) 英語試験問題集の過去問題を解く、英文法を理解する	
	③ 国家試験受験	8	9) 過去問を解く、英文法を理解する 10) 国家試験を受験する(8月期)			
	後 期	【航空無線通信士 再受験対策】			卒業試験 ④～⑥	
		④ 無線工学 過去問を解く	10			航空無線通信士試験 不合格科目に対する受験対策を実施
			11			1) 不合格科目に対する弱点補強 2) 過去問、問題集等を再度履修し弱点を克服する
		⑤ 法規 過去問を解く	12			3) 電気通信術不合格者は、送話・受話の練習を行う 4) 英語不合格者は英文法を理解する
1			※航空特殊無線技士試験不合格者がいる場合は別途計画する			
⑦ 電気通信術 練習 送話、受話		2	5) 国家試験を受験する(2月期)			
⑧ 国家試験受験	3					

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
英語Ⅱ	講義		4	4	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			80	80	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実用英語技能検定準2級を取得するための英語力を身につける
使用教科書・副教材等	英検準2級頻出度別問題集
教員実務経験	学習塾にて英語科目を担当

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	50 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	課題・提出物・小テスト	30 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	①短文の語句空所補充	4	1) 頻出度A	前期試験 ①～③
			5	1) 頻出度B 2) 頻出度C	
		②会話文の文空所補充	6	1) 頻出度A 2) 頻出度B	
			7	1) 長文の語句空所補充	
		③長文問題	8	1) 長文の内容一致選択 (Eメール)	
	後 期	④ライティングテスト	10	1) 長文の内容一致選択 (説明文)	卒業試験 ④～⑥
			11	1) Eメール	
			12	1) 意見論述	
		⑤リスニング問題	1	1) 会話の応答文選択 2) 会話の内容一致選択 3) 文の内容一致選択	
		⑥面接試験	2	1) 問題カードによる質問対策 2) 受験者自身の意見を問う質問対策	
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
TOEIC II	講義		4	4	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			80	80	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	TOEIC Listening & Reading TEST スコア400点以上 (オンラインでの受験を予定する。)
使用教科書・副教材等	①公式TOEIC Listening & Reading 問題集 10 ②続・TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル ③英会話ペラペラビジネス100
教員実務経験	海外事業部門で、海外企業との技術導入に係る業務に携わった経験 航空機メーカー等との英語によるコミュニケーションを行った経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	① TEST 1 LISTENING TEST READING TEST	4 1) Listening Part 1～Part 3、英文法(品詞を理解する) 2) 会話表現のマスター(Lesson39～43)	前期試験 1)～10)
		② 英文法 品詞、動詞、代名詞	5 3) Listening Part 3 ～Part 4、英文法(品詞を理解する) 4) 会話表現のマスター(Lesson44～49)	
		③ 英会話の習得 Regular Contact	6 5) Reading Part 5 ～Part 7、英文法(動詞を理解する) 6) 会話表現のマスター(Lesson50～59)	
		④ TOEIC L&R TEST 受験 (前期試験:オンライン)	7 7) Reading Part 7、英文法(動詞を理解する) 8) 会話表現のマスター(Lesson60～65)	
			8 9) Reading Part 7、英文法(代名詞を理解する) 10) 会話表現のマスター(Lesson66～67)	
	後 期	⑤ TEST 2 LISTENING TEST READING TEST	10 1) Listening Part 1 ～Part 4、英文法(接続詞を理解する) 2) 会話表現のマスター(Lesson68～73)	卒業試験 1)～8)
		⑥ 英文法 接続詞、関係代名詞 比較、前置詞	11 3) Listening Part 4、Reading Part 5 ～ Part 7 英文法(関係代名詞を理解する) 4) 会話表現のマスター(Lesson74～81)	
		⑦ 英会話の習得 Heavy Contact	12 5) Reading Part 7、英文法(比較を理解する) 6) 会話表現のマスター(Lesson82～85)	
		⑧ TOEIC L&R TEST 受験 (卒業試験:オンライン)	1 7) Reading Part 7、英文法(前置詞を理解する) 8) 会話表現のマスター(Lesson86～87)	
			2	
			3	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本作業Ⅱ	実習		5	3	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			100	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の整備作業の基礎となる基本作業の技能を習得する
使用教科書・副教材等	・航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	課題・小テスト 50点未満
後期試験	課題・小テスト 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	各章の課題・小テスト成績	80 %	仮評価		%
	実習態度・安全対策	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 二 学 年	前 期	①表面处理、塗装作業	4	1)1年次作成した文鎮を使用して塗装作業を理解する	前期試験 ①～⑤
		②電気工作作業	5	1)航空機用電線、配線固定方法、について理解する 2)ターミナル接続方法、コネクタの構造について理解する	
		③電気計測	6	1)組立キットのマルチ・テスターを組立 2)マルチ・テスターの測定法、注意事項を理解する	
		④車両構造、トラブルシュート	7	1)メガー・テスターの測定法、注意事項を理解する 2)車両の日常点検方法と不具合の対処法を理解する	
		⑤成形法	8	1)アルミ板曲げ(アルミ箱製作)作業を理解する	
	後 期	⑥ケーブル	10	1)ケーブル・リギング、ターンバックル調整等を理解する 2)ホースの特性、チューブの特性を実技を通して理解する	卒業試験 ⑥～⑩
		⑦ホース・チューブ	11	1)構造部の処置の仕方を理解する 2)オーバー・パッチの作業方法を理解する	
		⑧構造修理	12	1)浸透探傷検査の方法を理解する 2)これまでの実習内容を再度復習後理解する	
		⑨非破壊検査	1	1)危険予知活動の概要を理解する 2)体で覚える安全行動を身につける	
		⑩基本作業のまとめ	2		
		⑪KYT危険予知	3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職実務Ⅱ	講義		1	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	・就職後のビジネスマナーの周知 ・福利厚生 of 仕組みを周知(給与明細、年金制度)
使用教科書・副教材等	ビジネス実務マナー検定 2級・3級
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	成績評価の50%未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 二 学 年	前 期	【ビジネス実務マナー検定】 基本マナー 会話マナー 接客マナー ビジネス文書	4	1.基本マナー 身だしなや、ハウレンソウなどの働くうえでの基礎を学。	前期試験
			5	2.会話マナー 尊敬語、謙譲語、丁寧語のTPO、応用を学習。	
			6	3.接客マナー 挨拶、名刺交換、訪問の際のノーマルを学習。	
			7	4.ビジネス文書 ビジネス文書の基礎知識を学習。	
			8	5.社内文章 文書の種類と基礎知識を学習	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

--